

## 分科会の記録 第2分科会 子供の発達に関する課題

### 【提言1 研究主題】

「地域の教育力を生かした豊かな心の育成」  
～家庭や地域との継続的な連携・協働を通して～

【提言者】 杵島地区副校長・教頭会 白石小学校 氏名 江頭 良

### 【協議の柱】

児童生徒の社会参画意識の向上につながる地域連携となるよう、各学校ではどのような取組をしているか。また、どのような取組が有効と考えるか。

地域連携活動を無理なく持続可能に推進するために、副校長・教頭としてどのように取り組むか。

### 【協議内容】

・伊万里地区では「地域の祭りに貢献しよう」をテーマに地域との関わりを行っている。コロナが収束して以前に戻りつつある中、地域との関わりは大切だが、どこまで関わるのかが難しい。持続可能な活動にするためにはどうすればよいかを検討している。

・塩田小学校では、昔からの商店街を歩行者天国にして、保護者、地域、一般の方と連携して行事に取り組んでおり、大変好評である。また、子供たちも多くの人と関わりをもつよい機会となっている。一方で、先生方が担っている部分は大変であり、持続した活動にするのが今後の課題である。まずは、町として、どのような子供たちを育てたいのか、大きなビジョンが必要ではないか。

・コロナ収束後、行事を元通りにしたい地域と縮小したい学校との調整役を教頭が担い、大変であった。

・持続可能な活動とするために、どのような子供を育てたいのかを学校、地域、保護者が共有しないといけない。コミュニティースクールを基盤として、行事を精選していくことも必要と考える。公民館、社会福祉協議会と連携するとよいのではないか。

・地域との関わりで学校が担っている部分が多すぎるのではないか。何のためにその活動をしているのか、目的や目標をもって取り組むことが大切である。また、学校がすべてするのではなく、地域の団体を活用するなど、役割を明確化する。

・目的意識と振り返りが大切。特に若手教員への意識付けが必要と考える。

・小学校は教師主導でお膳立てしてしまうことが多い。子供の社会参画意識にどのようにしてつなげていくかが課題である。社会参画意識向上のためには、体験したことを通して、感想だけではなく、その地域に必要なことは何か考えることまでが求められる。

・教頭や担任の引継ぎ例で「地域連携年間計画」の作成が有効である。データベース化して市のクラウドで共有する。管理職が管理し、担任や担当が更新する。連携した記録を残すことが大切である。(いつ、だれが、だれに依頼したのか等)

・地域人材の高齢化が進んでいる。また、専門性が強すぎることもある。

・小さな学校ほど、地域が学校を大切に思う。主導権を地域にできればよいが、なかなか難しい。

### 【指導助言】 西部教育事務所北部支部 指導主任 福島 慈 氏

・全国学力・学習状況調査の結果から、友達関係や教師のサポートが子供のウェルビーイングに強く関連していることが示された。子供たちが自ら好きな科目に打ち込める学習環境や学習指導の重要性が指摘された。

・子供のウェルビーイング向上が地域全体のウェルビーイング向上につながる可能性があり、助け合いや地域参加、ボランティア活動への参加が重要であることが示された。

・佐賀県の重点的取組である「ほめるから、はじめる。はじまる。」という合言葉を念頭に、子供たちの言動や頑張りに気付き、褒めて高めていくことが重要である。

・子供たちを直接支える存在である教員のウェルビーイング向上も、教育にとっては重要である。(提言2の助言と同じ)